



ミヤマキリシマ

(雲仙つつじ)

雲仙天草国立公園 雲仙地域

環境省雲仙自然保護官事務所

雲仙ミヤマキリシマMAP



【作成】環境省雲仙自然保護官事務所

【写真提供】雲仙お山の情報館、三浦千鶴子氏、原野正則氏、柴田鹿吉氏、山本哲也氏

※本誌掲載の地図、写真、イラスト、文章の無断転載を禁じます。

雲仙天草国立公園 雲仙地域

(以下、雲仙地域)

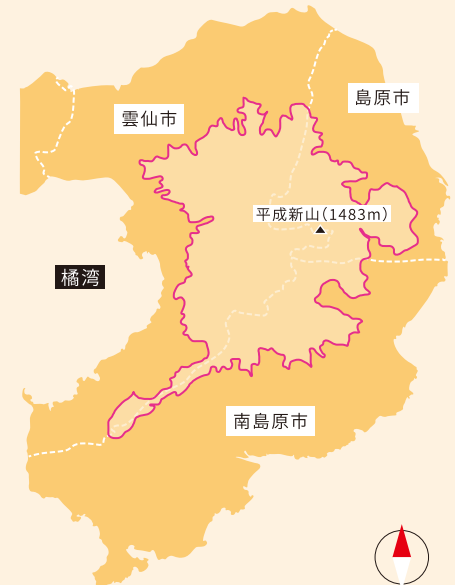
日本の自然を代表する三十五の国立公園の一つ、雲仙天草国立公園。この公園の雲仙地域は、国立公園「雲仙」として日本で初めて指定された国立公園の一つで、令和六年三月十六日に指定九十周年を迎えました。

雲仙岳を中心として、島原半島の三市（雲仙市、島原市、南島原市）の標高の高いエリア全体が指定されており、平成新山（一四八三メートル）をはじめ、湯けむり漂う雲仙岳（温泉岳）の火山景観と、様々な気候と独特な

地形が生み出す生物多様性が特徴の公園です。四季折々の雲仙の自然は山を色とりどりに染め上げます。春のミヤマキリシマ（雲仙つつじ）が桃色に、初夏のヤマボウシが新緑とともに白く、秋の紅葉が赤と黄色に、冬の霧氷が白銀に、山を変えてくれます。



雲仙の
自然や歴史を
もっと知ろう！



島原半島（長崎県）
雲仙天草国立公園
雲仙地域の範囲



ミヤマ キリシマ

ミヤマキリシマは九州の高山域固有の低木で、雲仙では四月中旬～五月下旬にかけて開花し、桃く薄紫色の二～三センチの花を咲かせます。花びらには斑点模様（蜜標）がないか、もしくは薄く目立ちません。火山噴火後の荒れた山肌や高温の硫酸黄泉が噴出する強酸性土壌などの極限環境下でも生育することができます。

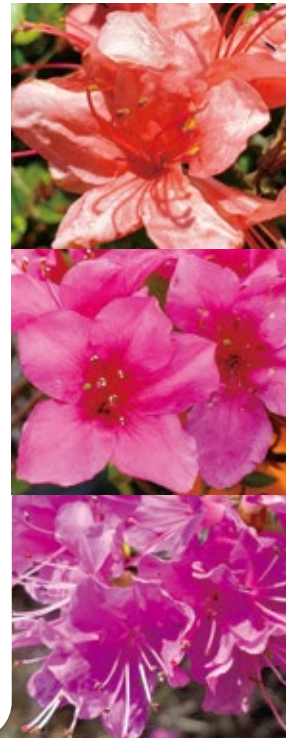


▲ミヤマキリシマの花



▲温泉噴出物と高温で白く変質した地表に根を張るミヤマキリシマ

多彩な色、模様、形の花をもつ雲仙のミヤマキリシマ「雲仙つつじ」



ヤマツツジ



ミヤマキリシマ



雲仙地域のミヤマキリシマは多彩な花色をもっています。これは桃く紫の花をもつミヤマキリシマが赤く橙の花をもつヤマツツジと自然の下で太古から交配してきたためです。雲仙の人々は交配によって生まれた色とりどりのツツジを「雲仙つつじ」と名づけて守り続けてきました。雲仙の風景が描かれた大正時代の絵葉書には、まるで宝石箱かのように様々な色の雲仙つつじが咲き誇っています。

花の色だけでなく、株ごとに花の大きさや形、斑点の有無や花のつけ方も様々であり、写真を撮ると違いがよく分かります。雲仙各地を回って、あなたが一番のお気に入りの花を見つけてみませんか。



MAP

6

池の原園地

いけのはらえんち



MAP

8

宝原園地

ほうばるえんち



池の原園地のミヤマキリシマ群落は国の天然記念物に登録されています。また、宝原園地は百年前には雲仙で最大規模のミヤマキリシマ群落があった場所です。どちらも雲仙温泉街から近く、よく整備されており、花の近くでピクニックを楽しむ人も見られます。

MAP

9

雲仙地獄

うんぜんじごく



雲仙温泉街の中心部、雲仙地獄。高温の硫黄泉が吹き出す、その名の通り地獄のような環境です。他の植物が生育しにくい強酸性の土壌にもかかわらず、ミヤマキリシマは元気に生きることができます。極限環境に適応したミヤマキリシマの力強さを感じてみましょう。



MAP

5

仁田峠

にたとうげ



MAP

2

国見岳

くにみだけ

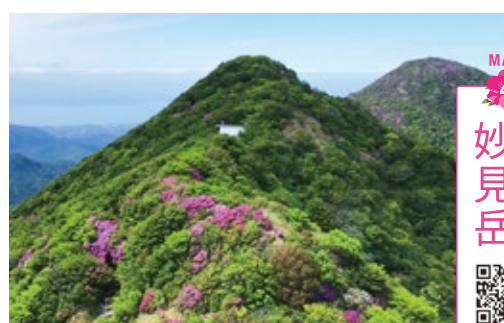


MAP

4

妙見岳

みょうけんだけ



MAP

3

普賢岳

ふげんだけ



雲仙のミヤマキリシマといえば仁田峠。五月上旬〜中旬には峠の一面が桃色に覆われた壮大な景色があなたを待っています。ロープウェイに乗ると、急峻な斜面に生きるミヤマキリシマを空から拝むことができます。元気があれば、山道を進んで妙見岳、国見岳、普賢岳の美しいミヤマキリシマも見に行ってみてください。

平成新山(奥)を望む





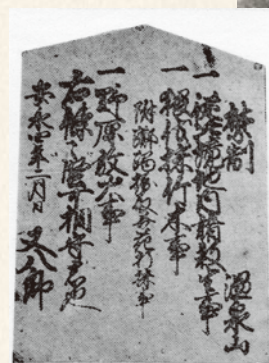
雲仙地域が国立公園に指定されてから九〇年。雲仙では放牧する人々が少なくなり、草原も消失しようとしています。
現在、雲仙地域で放牧地とミヤマキリシマ群落と共に残るのは田代原のみ。雲仙最後の原風景がここにあります。

国立公園指定当時の 絹笠山の風景

雲仙は昔、放牧が盛んな地でした。ミヤマキリシマには毒があり、牛や馬、羊は食べることができません。そのため、放牧草原には広大なミヤマキリシマ群落を作り出されました。雲仙地域が国立公園に指定された昭和初期には雲仙の草原面積は約二六〇〇ヘクタール、ミヤマキリシマ群落は約八八〇ヘクタールにも及んでいたそうです。



雲仙地域のミヤマキリシマが守られてきた歴史には長いものがあります。一六九三年、島原藩主の松平忠房が雲仙を視察し、ツツジの折り採りを禁止する令を出しました。一七七五年には、雲仙に登るすべての街道に下の禁札が立てられました。この札にはツツジの掘り採りと野火（阿蘇に代表される草原維持のための火入れ）を禁止すると書かれています。この禁令により、雲仙では地域一体でツツジが守られ、また火で焼かれることなく、大規模な群落が維持されてきたと考えられます。



保全活動

雲仙のミヤマキリシマはその数を減らしています。雲仙地域が国立公園に指定された九〇年程前に比べて、生育面積は九九パーセント減ってしまいました。

昭和七年
880ha



令和六年
10ha

ミヤマキリシマは日陰では生育できません。ですが、人の手が入らないと草原はすぐに森になってしまい、ミヤマキリシマは枯れてしまいます。雲仙のミヤマキリシマは人間の活動あつての群落だったのです。



雲仙を美しくする会の保全活動への協力は
こちら▼



NPO法人 奥雲仙の自然を守る会の保全活動への協力は
こちら▼



令和六年、雲仙地域が国立公園に指定されてから九〇周年を迎えたことを機に、雲仙のミヤマキリシマの保全と利活用を目的とした産学官民による「雲仙ミヤマキリシマ保全活用連絡協議会」が立ち上がりました。雲仙地域の優れた自然景観を維持するために、島原半島にお住いの方々と自然を愛する人々、様々な機関や団体が協力し、ミヤマキリシマを守っていきましょう。

保全活動は定期的に開催されていますので、皆様のご協力をお願いいたします。